

国会開設と日清戦争

自由民権運動の全国的な盛り上がりによって、帝国議会が開設され、日本帝国憲法が、明治二十二年に発布され、翌、二十三年には選挙が行われたが、地主議員を含んだ自由党が第一党になり、明治政府は度々窮地に追い込まれた。

朝鮮支配は、日本の基本的な対外政策であったが、清国の支配が強まり、またロシアの朝鮮進出の気配や、それに反対する宗教団体の東学党の朝鮮政府が清国に、助けを依頼するなど、朝鮮の独立と在留邦人の保護を口実に、日清戦争が勃発した。

伊藤博文の明治政府は、維新以来「富国強兵」を推し進めてきたが、内に信用を博する大きな賭けでもあった。

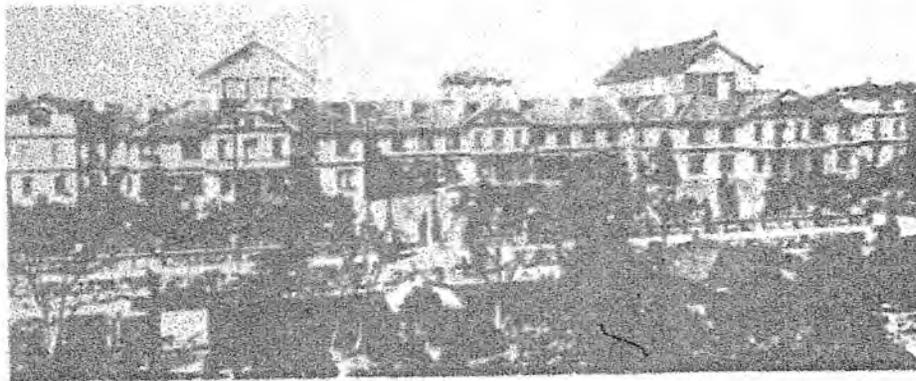
西南戦争に従軍し、対外戦争の経験豊富な「歩兵第七連隊」の金澤部隊に白羽がたつて「第七連隊」に動員令が下されたのは、明治二十七年八月四日のことであった。

第七連隊の「遠征日誌」によれば、部隊は八月二十九日に金澤城を出発したが、当時北陸線は米原・敦賀間しか開通しておらず、重装備のまま行軍したので、敦賀までの行軍で、七連隊は三人の死者と、全体の半数に近い落伍者を出してしまった。

この行軍での損害が、次いで予想されたロシアとの戦いのために、北陸線の前線開通が焦眉の急となった。

思わぬ本土での苦戦に対して、戦争の方は比較的順調で勝利しつつあ

った。



第2回仮議事堂 明治24年11月に竣工され、大正14年まで使用された。



日清戦争 國の存否を賭した市街戦で、多くの市民を犠牲にした。牛莊附近攻撃の図。